

# Think the Earth Paper

Vol.3 Autumn - Winter / 08 - 09

→ 世界が変わる日 55人の言葉



左上)世界最古の都市と呼ばれるシリア、ダマスカス。ウマイヤド・モスクの朝。右上)新疆ウイグル自治区、カシュガル。の昼下がりの街。左下)爆音と共に崩れる、南米、パタゴニアのペリト・モレノ氷河。右下)標高3,600mにあるパミール高原、カラクリ湖の朝。遊牧民の女の子とロバの後ろに見えるのはムスタグ・アタ峰。写真/佐々木拓史

変えたいこと、変わらないこと  
その世界の真ん中で。

Think the Earth  
[www.ThinktheEarth.net/jp](http://www.ThinktheEarth.net/jp)

Think the Earthプロジェクトは「エコロジーとエコノミーの共存」をテーマに2001年に発足したNPO(非営利団体)です。ビジネスを通じて社会に貢献するしくみを提供し、日常生活のなかで地球や世界との関わりについて考え、行動する、きっかけづくりを行っています。環境や社会問題への無関心とあきらめの心こそ最大の課題ととらえ、ウェブサイトや書籍などで情報発信を行っているほか、企業やNPO、クリエイターとともに誰もが参加できるプロジェクトを開発・提供しています。



## 赤池 学

ユニバーサルデザイン総合研究所所長

今後、環境対応のメインストリームは、実証的な予防策ではない「温暖化対策」から、現実課題である食料や生物多様性に対する、具体的なソリューション開発、「生物多様性産業技術」へと移っていく。そのための多くの解は、保全、増産、改良まで可能な、持続可能な生物資源の知的活用で収束するだろう。生物の機能性を活用したもので、すなわち「いきものつくり」への着目こそ、人を含めたいのちの多様性と尊厳を形にする、大きな原動力となるだろう。

## 安藤忠雄

建築家

地球の未来を創ろうとするならば、その未来を担う子どもたちの教育こそが重要。彼らの心の不安を取り除き、生きていくために必要な力を育み、生きることに希望を与える。真の意味での教育だ。さまざまな国の子どもたちが、自主的に考え、共に助け合うことの重要性を学べる環境をつくること。今の世界をつくった私たち大人の責任である。

## 飯田哲也

環境エネルギー政策研究所 所長

今、世界は「金融危機・気候危機・エネルギー危機という「3つの危機」に直面している。これを乗り越えるために、自然エネルギーに大規模な投資を行って、産業・経済・社会を抜本的に転換するグリーン・ニューディールが提案されている。また、「10年で人類を月に送る」と訴えた1961年のケネディ演説に輪で、アル・ゴアなどが「10年で自然エネルギー社会に送り届ける」ことを訴える「アポロ同盟」を立ち上げ、オバマ大統領に働きかけてきた。こうした根拠からの社会変革が現実になった時、世界は変わる。グリーン・ニューディールで、気候・エネルギー・金融の再生を！

## 上田 壮一

Think the Earth プロジェクト プロデューサー

千年先から振り返れば、今を含む前後50年が、世界が激変した時代だったことになるだろうと思います。宇宙から地球を眺め、世界をつなぎ、遺伝子が解読され、人口が増え、資本主義が躍らぎ、持続可能な社会へのチャレンジが始まった……そんな時代に生まれたことを楽しみ、変わるなら良い方向にと思う人が増えること。未来は誰かが作ってくれるのではなく、一人ひとりが日々の積み重ねの末にたどりつく場所だから。変化に参加しよう。

## 枝廣 淳子

環境ジャーナリスト/翻訳家/有限会社イーズ 代表取締役

世界が変わっていくために決定的に重要なのは、「世界を変えていきたい」という思いを持って行動する人がどんどん増えていくことです。こういう世界にしたいというビジョンを描き、さまざまな問題や状況が相互に影響し合っている構造を理解した上で、実際に行動していく人が増えていけば、世界は変わっていくでしょう。すでに、さまざまなレベルで世界は変わりはじめます。その動きをつなげることで、大きな流れをつくり出していける——面白生き甲斐のある時代です。

## 江守 正多

独立行政法人国立環境研究所 温暖化リスク評価研究室長

「分煙」が進んできたことは、世界が変わることのよいサンプルではないかと思えます（僕は別に煙草家ではないですが）。「タバコを吸う権利」と「煙を吸いたくない権利」を両立するために、社会は「どこでもタバコを吸ってよい権利」を放棄しつつあります。まったく同様に、「必要なエネルギーを使う権利」と「温暖化を止める権利」を両立するために、社会は「無駄なエネルギーを使う権利」を放棄してもいいような気がします。

## 大平 貴之

プラネタリウムクリエイター

世界が変わった日。2001年9月11日。同時多発テロをきっかけに、米国が怒りに我を忘れ、一国主義を強め、武力をもって他国への攻撃を繰り返した。世界の不安が高まった。2008年11月4日。バラク・オバマ氏が共和党のマイン候補を破り次期大統領に選ばれた。これは米国の一国主義に対して米国民がNOを突きつけた日。世界の国際協調への一歩を踏み出した。

## 小林 紀晴

写真家

2001年9月11日、僕は米国のニューヨークにたまたま居ました。さらに半年をその町で過ごしました。崩れ去る2つのビルを目の前に、それまで信じていたこととか、あつたままだと思っていたことが、実はそうではなく、ただそれ思っていたにすぎなかったのだと、強烈に知らされました。これからはもう「美しいものを撮ろう」と、決意しました。あれから7年がたちましたが、その思いはいまも変わりません。

## 小黒 一三

月刊リポート編集長/ムバサファリクラブ オーナー

私がリゾートホテルを造ったケニアでは、エネルギー・コストという考え方が主流です。電気が来ない村に、自然エネルギーの小さな基地を作って、電力を供給する。巨大なダムを作って、電力を大量消費する社会ではなく、エネルギー消費をできる限り少なくしても発展する社会モデルを模索中です。コンクリートだけではない未来社会が、果たしてアフリカに出現するのか。大いなる実現に参加できては幸せです。

## 小崎 哲哉

『百年の悪行』編者/『REAL TOKYO』『ART IT』編集長

世界がよい方向に変わることがあるとすれば、我々が言葉のままたちの意味で「現実的」にならなくていいです。できる限り事実を知ること。幻想を抱かないこと。愚痴をこぼさないこと。とはいえそれは「理想的」と矛盾しません。大切なのは「現実の最適化を目指すこと」であり、その姿勢を僕は、カー・オブ・ニューガットとジャン・リュック・ゴダール、そして中島らもから学んだように思います。実現できているとはとても言えません。

## 金子 美登

箱庭農場 代表/1971年より有機農業を営む

国内に豊富にある農産資源を活かして食とエネルギーを自給する。日本の田んぼは米と麦が獲れるばかりでなく、畑では四季を通じて野菜や果物がある。その先には人がうらやま位に豊かで安心の食卓があった。パイオニア施設では調理用ガス、廃食油では車やトラクターを動かす、母屋、排水、アイガモの獣害防止、乳牛の放牧用の電気柵には太陽電池を、給湯にはフッドボイラーを活用…等に見るように、ここには「限りなく永遠に近い農」がある。

## 駒崎 弘樹

特定非営利活動法人フローレンス 代表理事

今後世界が変わるために。批評家ではなく、社会問題に手を突っ込む実務家が増えることが、最も重要かつ喫緊の課題だ。それを社会起業家と呼ぶが、アクティビストと呼ぶ方が、とくにリスクを取ってヘドローのうらこの世界の裏に、笑顔で手を突っ込む人間を増やさねばならない。

## 紺野 美沙子

女優/UNDP 親善大使

今年の夏、UNDP親善大使としてタンザニアを訪問しました。電気も水もない地域で暮らす人々の厳しい生活を目の当たりにしました。国連は2015年までに、極度の貧困と飢餓の撲滅や、すべての子どもたちに初等教育を受けられるようにすることなど、8つの項目からなる「ミレニアム開発目標 (MDGs)」を達成することを目標としています。その実現に向けて力を合わせることを何より大切だと思います。

## 斎藤 暁

ASU International社 代表/エコイスト

子どもを持って未来とつながった。小さなものをいたわる気持ちや、地球の将来を心配するようになった。同時に、世の中をもっと平和に、もっと住みやすい環境にしたいと、自分に課された責任もある。「自分が愛された、世界も変わる」と言われる時代だからこそ、まずは半徑5メートルからできることからスタートしたい。

## SHIHO

モデル

世界を救うのは「愛」しかない！ 愛は、人、環境、世界のすべてを守ってくれるから。誰かを愛するに、まず、生まれてから家族に愛されて育つことが絶対条件ではないでしょうか。今、残酷な事件が多いのも、家族からの愛情が足りないのが、決定的な理由だと思います。家族を信頼し、思いやり、守る。すべては、ここから始まります。

## 田中 優

未来バンク 代表/中間法人天然住宅 共同代表

地球が変わる日  
「あれ？ こんなことしかしてないのに、おこながなくて暮らせる？」  
「本当だ、みんな家で建てて、食べ物を料理して、それで暮らせるなんて不思議。太陽光発電の電気と薪ストーブの熱で足りるんだし」  
「よし、会社辞めてよかったよ、家族と一緒にいられたら、少し稼いだら会社の奴隷にならずにすむわね」  
「じゃ、今は天気がいから、共有の電気自動車もドライブ行きましょ」

## イヴォン・シュイナード

(バタゴニア) 創業者/オーナー

何よりも先に変わらなくてはならないのは消費者、つまり私たちです。今、私たちは地球7割分の資源を消費しています。これは持続可能な社会にはほど遠いことは明らかです。問題が私たち自身だということは、解決策も私たち自身にあるということです。

## しりあがり寿

マンガ家

ボクは今年の秋、世界を金融危機が襲い、阪神が13ゲーム差を追い越した時に「マジババイかも」と思いました。今の文明は地球の気温がある温度を超えた瞬間、石油がある資源を切った瞬間、ガラガラと金融危機のようにならざるを得ない。そして「そんなのオレが死んだら」と、自分に課された責任もある。「自分が愛された、世界も変わる」と言われる時代だからこそ、まずは半徑5メートルからできることからスタートしたい。

## 竹村 真一

文化人類学者/京都造形芸術大学 教授

地球時代、宇宙時代といわれながら、私たちはいまだに「地球に生きている」という実感をもち得ていません。私たちは毎日毎食「地球を食べている」にもかかわらず、そうしたグローバルな生活に拮抗しうだけの意識のプラットフォームが存在しない。要するに「情報環境」の問題なのです。そうした思いからデジタル地球儀「触れる地球」や地球の裏側の人々の気配に耳を傾ける「地球聴診器 Aquascape」を創っています。未来は「予測」するものでなく自ら「創造」するものだと思つて。

## 谷川 俊太郎

詩人

私はメッセージが好きな人ではありません。言葉が外に向かって、自分自身に向けていないからです。いま人類がかかっている問題は、すべて私たち自身の貪欲の結果だと私は考えています。自分にひそひと小さな「悪」が地球大の悪に育ってしまうのを、他人に責任転換せずに制御していきたくと思っています。世界を変えることはできませんが、自分を変えることはできるかも知れません。

## 谷崎 テトラ

構成作家/環境メディアプロデューサー

人類は今後100万年生きたとしても生物学的な進化はしないという説を英国の科学者が唱えました。とすると人類の進化の戦略は「意識」や「価値観」の変化としてあらわれてくるのではないかと。ヒトはやがて地球生態圏の中での知性としての役割を担い、意識の延長としてのネットワーク、多様性の中で調和する共同体としての身体を持つ。それが今おこりつつある変化 (ワールドシフト) の意味するところであり、今日の出会ひの意味することなのかもしれない。

## ピーター・D・ピーダーセン

株式会社イースクエア 代表取締役社長

私たちがつくった社会が本当に持続性をもって、子どもたちにバトンタッチできるか。最近では私たちがヒトとしての精神的・文明的進化を遂げられるかにかかっているのではないかと。頭でかちかちの「ホモ・サピエンス」から、「ホモ・ソシエンス」へと、ここ数十年のうちに進化できるか。ホモ・ソシエンス (homo socius) とは、他の生き物や将来世代と「共鳴」できるヒト/さまざまな境界線を超えて「協調」できるヒト/他とともに未来を「共創」できるヒト/そんなヒトが誕生したときに、世界は変わる…。

## 福岡 伸一

分子生物学者

地球環境の歴史をふりかえったとき、世界が変わった日はいつかと問われれば、私はほとんど最初性が生み出されたときと答えるのだ。重要なのは、しかし、アダムのイブを作ったのではなく、イブがアダムを作り出したという事実である。最初、通信の使い走りやさまざまな男はやがて、森を拓き、道をつくり、そして余剰を生み出した。そのような必然の帰結として現在がある。生物学の成言はこうである。いはば男、と。現在がある。

## 藤田 純一郎

東京医科歯科大学 名誉教授

若者が子どもを生めなくなる日。「レイ社会」は若者の感性や情熱を奪い、「生きる力」を弱めています。「レイにするのがよいことだ」と言って身体を何度も石鹸で洗い、ワイシャツを毎日ドライクリーニングに出している、ピエフォル・Aのような化学物質が出てきます。「レイに見せる」ために多く使われている包装を洗知処分するとかイオキオンが出てきます。これらの物質のために、若者が子どもを生めなくなる危険性があるのです。

## 山名 清隆

日本愛家協会 事務局長

仕事をする時間より、妻と過ごす時間を大事に楽しんでみることにしてから僕の世界は変わりました。暮らしの軸を Think the Work から Think the Wife に移したという感じが。きっかけは離婚。これまでの仕事への仕方が間違っていたと実感。もっと自分も周りも幸福になる働き方しよう決めた。そうしたら不思議なことに競争心は競争や断定を超えて、しなやかにワクワクするような新しい調和を作り出し出したことと思えるようになりました。

## 山本 良一

北海道学生産技術研究所 教授

北海道産肉のG8サミットで、2050年までに世界の温室効果ガスを半減することが「実質的に合意された。国際エネルギー機関はそのための費用を4,800兆円と見積もっている。欧米先進国や日本は2050年までにそれぞれの年間排出量を60~80%削減することを長期目標としている。これはまさに環境革命である。金融崩壊は再生可能だが、環境崩壊はひたひたに近づけば復元は不可能である。若い皆さんには環境革命を経済復興のエンジンとして、是非サステナブル経済を実現していただきたい。

## 湯浅 誠

反貧困ネットワーク 事務局長

「このままだと、世界と日本はどうなっちゃうんだろう？」という不安を抱えつつ、「でも自分がひとりでも何かやったらとでも、どうせ何も変わらない」と諦めている、そんな不安と諦めを同居させている人が多いと感じます。「あきらめるな。声をあげよう」と言われても、日々の生活が大変でそれどころではない。実際には、声をあげられるような余裕や空間を社会の中につくり出していく作業が先行しないとダメです。私は日本国内の貧困問題に取り組んでいます。貧困者たちが声をあげられる条件を作ること、そのとき世界は変わると思っています。

## 星川 淳

グリーンピース・ジャパン事務局長/作家・翻訳家

その日、私ははるく島山中にある、使われなくなった林道歩いて。30人ほどの島民とメディア関係者と連れ立って、林野庁が釧路島で最後の原生林伐採を計画する森への「見学ツアー」だ。まだ電子メールのない時代で、国内外から登山客に伐採中止要求を集中させるアクセス作戦を抱き合っていた。2週間前、林野庁は計画断念を発表し、翌年の世界自然遺産登録にもその森が含まれた。みんなの頭と手足で世界を変えた日――。

## My Think The Earth : travel

佐々木拓史 (Think the Earth プロジェクト事務局)

### 変わる世界と変わらない世界

2008年9月、インド北部のヒマラヤ山岳地帯、ラダックを訪れた。深山に囲われ独自の文化を育んでいたこの地は、今、開発と発展という急激な変化に襲われている。世界は急速に変化している。とはいっても、今回は変わらない世界の話を。

実はこの旅でも衝撃を受けたのが、ラダックよりも、トランジットで10年ぶりに訪れたインドの首都ニューデリーだった。今やインドはBRICsという難しいアルファベットの一部となり、経済の話題に事欠かない。先進的なインドはいったいどう変わったのか。懐かしも不思議に思っているが、ゲストハウスが並ぶメイバザールへ向かった。

そこは10年前と寸分変わらない。埃と香辛料が絡まった独特の臭いがした。歩き始めると「マイフレンド!」「ホテルはこっちだぜ」「ハシシはいるかい?」と空引きたちが寄ってくる。通りにはクラクショの音が鳴り響く。人と人の間を縫うようにリキシャが走り、車にバイク、自転車に牛車までが共存するカオスである。神聖なる牛たちは今も変わらず、何知らぬ

顔で、暇そうに寝そべっていた。サイクリキシャに乗り、繁華街の「コンノート・プレイス」と行き先を告げる。しかし、連れて行かれたのは全く方向が違ふ土産物屋。やれやれである。インドは今も昔もインドなのだった。そのほかの何モノでもない、圧倒的な普遍性があること。それが妙にうれしく、この旅一番のスパイスとなった。

■急激に変わる世界。インド・ラダックで行われているオルタナティブ教育とは!? レポートはこちらから [www.ThinktheEarth.net/jp/thinkdaily/report/](http://www.ThinktheEarth.net/jp/thinkdaily/report/)

【写真】Think the Earth 地球レポート



あらゆるものが共存するインドのメイバザール

## My Think The Earth : food

中島愛子 (Think the Earth プロジェクト推進スタッフ)

### 食に関わる課題に取り組むデザイナー

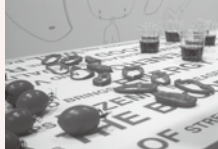
食に関する問題に対し様々な取り組みが行われているが、料理人でも栄養士でもないひとりのオランダ人デザイナーの取り組みに注目している。彼女の名前はマリエ・フォード・ザンク、プロダクトデザイナーの下で働いた後、レストランデザインスタジオ『ブループロフ(proff)』を設立。「フードのみのデザインではなく、食べるための場をつくり、食べる行為までを含めた体験を生み出したい」という意図から、自らの取り組みを「イーティングデザイン」と呼んでいる。

宗教的要素を取り除き、「シェア(分かち合い)」にテーマを絞ったクリスマスディナーや、参加者に戦時中の食の思い出を語ってもらうことから始めるレパノでのワークショップのほか、具体的な課題に対する解決策も提供している。例えばNYの小児クリニックの依頼に応じた、肥満の子供たちを対象としたプロジェクトでは、食べることにネガティブな感情を持つ彼らに対し、レオナルド・ダ・ヴィンチの心理学に基づいて「白-希望」「赤-活力」というように、素材の色とポジティブなイメージを結びつけ、食べるこ

とを楽しむ仕組みを考案した。「イーティングデザインは胃腸だけでなく、人の気持ちとして脳にまで到達するもの」と語るマリエさんの「食の体験」づくりや、食に対する心理的効果を図る試みを参考に、我が家なりの「イーティングデザイン」を試してみたい。21世紀の東京で子育てをする母親として、そんなことを考えている。

■Think the Earth プロジェクトのスタッフが日々思うこと、お知らせなどをブログでお届けしています。 [www.ThinktheEarth.net/jp/staffBlog](http://www.ThinktheEarth.net/jp/staffBlog)

【写真】Think the Earth スタッフブログ



六本木ホテル(メキシコシティ)で開催された展覧会の様相

## My Think The Earth : ocean

中川真琴 (Think Daily 地球ニュース レポーター フィリピン在住)

### フィリピンの海

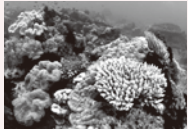
ダイビングを始めて4年。今までに350本以上をフィリピンの海で潜ってきた。フィリピン、マレーシア、インドネシアに囲まれる海はコーラル・トライアングルと呼ばれる地域の中心で、海洋生物の多様性が最も高い地域とされている。珊瑚の隙間、岩陰、砂の中など、どこでもエビやカニ、魚などに溢れている、個性豊かな表情を見せている。350本以上潜った今も一本一本のダイビングで新しい発見がある面白い海だ。でもやはり、人間活動の影響は海の中にも確実に及んでいる。珊瑚の白化現象はもちろん、禁止されているダイナマイト漁もまだまだいくつかの地域で行われている。ダイビングに関心があるという純粋なダイバーの音や、海底に散らさる死んだ魚は不気味なものだ。ダイバーの中にも、不慣れだった水中写真を撮るのに夢中だったりで珊瑚を壊している人が多い。壊れた珊瑚が広がる地帯は、空爆を受けてすべてを失った町のように見える。

フィリピン政府は海洋資源保護に取り組んでいるが、地域レベルでの環境保護に対する意識はまだ低い。経

済的理由で浄化槽を設置できず汚水を海に垂れ流している家庭や、他に取入源がなく海洋資源からなるべく多くを得たい貧しい漁師たちへの配慮も必要だ。一方で、保護区を作った地域には珊瑚が育ち始め、魚が戻ってきているという。自然の生命力は強い。人間が自然のためにできることはまだまだたくさんある。私たちがもっと海から学び、海に手を貸すことで、珊瑚や魚たちが海に戻ってきてくれることを心から願う。

■Think Dailyの「地球ニュース」では、世界中から発信される地球の話題を日々更新中です。 [www.ThinktheEarth.net/jp/thinkdaily/news/](http://www.ThinktheEarth.net/jp/thinkdaily/news/)

【写真】Think the Earth 地球ニュース



フィリピン中部、アポ島周辺の海は珊瑚は綺麗!

## My Think The Earth : action

風間美穂 (Think the Earth プロジェクト推進スタッフ)

### 水をえらぶくらしを始めませんか?

朝起きてから、夜寝るまでの間、私たちが水を使わずに過ごす日はない。だからこそ、水について考えるきっかけを提案したい。そんな想いで始めたプロジェクト「Water Planet」は、今年で5年目を迎える。水を意識する機会が多くなる夏の間、東京を中心として約1ヶ月にわたり、マイボトルユーザーを応援する活動を続けてきた。2008年のテーマは「チェンジ・ウォーター! ~水をえらぶくらし~」。日本人が日頃あまり意識しない「水」について知り、賢く「えらぶ」暮らしにチェンジすることで、環境への負担を減らし、世界の水問題をより良い方向へと変えていこう! というメッセージを込めた。水は限りある貴重な資源だが、地球規模でうまく循環させることができれば、永続的に活用できる有望な資源とも考えられている。知っているようで知らない水の不思議や美しい写真を通じて、身近な水を意識してみよう。自分のライフスタイルに合わせたマイボトルを買ったり、節水技術の優れた製品に買い替えたりするなど、一人ひとりの小さなアクションから大きな

チェンジは始まる。「Water Planet」に参加し、水をきっかけに世界へ目を向けることで、あなたにもできる「世界を変える」方法をぜひ見つけてほしい。 [www.ThinktheEarth.net/jp/waterplanet/](http://www.ThinktheEarth.net/jp/waterplanet/)

【写真】Think the Earth ウォータープラネット



「遊スタイル」※au, docomo, soft bankの各社携帯電話に対応



「ナショナルチャンネル」※auの携帯電話にも対応



## Information

### 01 宇宙からの視点をすべての人へ。地球時計に、ホワイトバージョン登場!

半球形のドームのままで、小さな地球が自転する地球時計wn-2。これまでのブルー、シルバーの2種類に加え、ホワイトバージョンが新たに加わりました。シルバーの地球に相性がいい文字盤と、オフホワイトのベドです。ソーシャルデザイナーマーケットをコンセプトにした「Think the Earth SHOP」でも販売中。 [www.ThinktheEarth-shop.com](http://www.ThinktheEarth-shop.com)



### 05 「えこよみ ecoyomi3」『たべものがたり』まもなく刊行

Think the Earth プロジェクトから2冊の本が新たに登場します。まずは「えこよみ ecoyomi3」。古代より伝わる、季節を表す豊かな言葉「二十四節気」「七十二候」をベースにし、美しいイラストと共に送る絵本です。プロダクトデザインより2009年11月下旬発売予定。そして『たべものがたり』。『たべものがたり』、『みずものがたり』に続くシリーズです。ダイアモンド社より2009年3月発行予定。

### 02 新たな1秒の変化、60項目を収録。期待の『1秒の世界②』が完成

1秒間人は93mlの空気を呼吸し、地球は太陽のまわりを29.8km進み、体育館32棟分の二酸化炭素が排出されている……2003年に出版されて以来好評を得、テレビにもさらされた書籍『1秒の世界』の続編、『1秒の世界②』が登場します。同じ時を共有しながら、刻々と変化する世界。ダイアモンド社より12月11日発行予定。予約1000円(税込)



### 06 様々な角度から地球を切り取るオンライン地球儀「アースリウム」

インターネット上、マウス1つでクルクル回せる地球儀をつくり、様々な角度から地球を切り取っています。たとえば「大航海時代」の地球儀は、コンパスを始めとする冒険家たちの航路が次々と地球儀上に描かれます。知っているようではない地球のこと、少しのそいでみませんか? [www.ThinktheEarth.net/jp/earthrium/](http://www.ThinktheEarth.net/jp/earthrium/)

【写真】アースリウム

### 03 リアルタイムの地球が見られる携帯アプリ「live earth」

宇宙からみたリアルタイムの地球を見ることが出来る携帯電話のアプリケーション。気象衛星のデータから再現された地球の雲画像を1日4回更新されます。雲画像にかかる情報料(105円/月)の一部は自然災害の被災地支援に活用されています。2007年度は「ソングラデュ」のサイクロン被害、ベルギー沖地震、南アジア洪水被害などの支援活動に使われました。※2008年12月現在、「au」でのみ利用いただけます。 [www.ThinktheEarth.net/jp/liveearth](http://www.ThinktheEarth.net/jp/liveearth)



【写真】Think the Earth ライブアース

### 07 ポータルサイトから地球を考えるYahoo! JAPAN「アースプロジェクト」

Yahoo! JAPANが環境啓発活動の一環として進めるWebサイト「アースプロジェクト」に協力しています。特集ページ「アースギャラリー」は大自然とそこで生きる人や動物の美しい写真がたくさん。コラムも読みこたえあり。自分らの「地球人宣言」が投稿できるコーナーも設置されています。Yahoo! JAPAN アースプロジェクト <http://earthproject.yahoo.co.jp/>

### 04 「雷×Think the Earth」の雷バッグに新バージョン

長野県にある福祉施設「OIDEYOハウス」とのコラボレーションで生まれた「雷×Think the Earth」の雷バッグ。使用済みの米袋にビニールのテープを1枚1枚手作業で貼り重ねてつくられています。従来のトート型にくわえ、新しくスクエア型が登場。A4の書類がすっきり収まるデザインで、通勤・通学のサブバッグにもおすすめです。 [www.ThinktheEarth.net/jp/kaminari](http://www.ThinktheEarth.net/jp/kaminari)



【写真】Think the Earth 雷バッグ

### 08 プロジェクトの活動をサポートする個人会員アースコミュニティー募集中

ひとりでも多くの人が地球との関わりについて感じ、考え、行動することで世界は変わる。この想いに共感し、プロジェクトの活動をサポートしていただく個人会員を募集しています。私たちが一緒に地球のことを学び、伝えていきませんか? 勉強会・交流会へのご案内などもさせていただきます。下記WEBページをご案内のうえ、ぜひご参加ください! [www.ThinktheEarth.net/jp/about/communitator.html](http://www.ThinktheEarth.net/jp/about/communitator.html)

## 2008年度パートナー企業 (2008.11.21現在 五十音順)

株式会社eTEN / 株式会社NTTアータ / 大塚フード食品株式会社 / オリオンバス株式会社 / カシオ計算機株式会社 / KDDI株式会社 / シャープ株式会社 / セイコーインスツル株式会社 / 株式会社現場製作所 / 三井不動産株式会社 / 株式会社リコー

発行●Think the Earthプロジェクト 〒150-0033 東京都渋谷区猿楽町3-1 エムワイ代官山202 TEL.03-3464-5221 FAX.03-5459-2194 E-mail tte-office@ThinktheEarth.net 発行●2008年12月 STAFF●企画/上田社一 編集/岡野 民 パーナー朝音 横山ゆりか デザイン/武田英志 (hoop) 協力/川口直美 山崎清之進 堀尾和彦 本紙にご寄稿いただいた方々に心より感謝いたします。また、本紙制作においてご協力くださったすべての方々へ、心より御礼申し上げます。



Think the Earth

P-B10002